

令和元年6月14日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02059

研究課題名(和文) 明治前期の宗教をめぐる言説空間の再検討 宗教メディアの横断的考察

研究課題名(英文) Reconsideration of Public Discourses on Religion in the Early Meiji: Through Synchronic Examination of Religious Media

研究代表者

星野 靖二 (HOSHINO, Seiji)

國學院大學・研究開発推進機構・准教授

研究者番号：50453551

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、宗教メディアに着目して近代日本宗教史を再検討し、それを近代と宗教というより大きな問題につなげて考察しようとしたものである。
具体的な成果として、仏教新聞である『明教新誌』の明治12年から24年までの目次を作成して公開し、その性格について検討した。キリスト教総合雑誌である『六合雑誌』について、明治前期の論説の内容を検討し、幾つかの翻訳論説については英文の原文との内容比較を行った。
また明治前期における仏教者のキリスト教観について、批判が基調ではあるが、キリスト者の実践、特に教えの説き方については見習うべき点があるとして、そこから自らのあり方を振り返るような議論も見られたことを指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

明治12年から24年までではあるが『明教新誌』の目次を作成し、インターネット上に公開した。『明教新誌』は明治期における代表的な仏教新聞であるが、これまで十分に研究に活用されているとは言い難いため、この目次の公開によって、今後の研究の進展が期待される。
また、近年の近代仏教研究の展開において明治20年代における仏教改良論・運動が論じられているが、それが行われる下地が明治10年代に準備されていた面があったこと、またそこでキリスト教の動向が念頭に置かれていたことを本研究は指摘した。

研究成果の概要(英文)：This study reconsidered the history of religions in modern Japan in the the broader context of modernity and religion through synchronic examination of religious media. I published the table of contents of Meikyo shinshi, a Buddhist newspaper, from 1879 to 1891, and studied its characteristics. I examined articles of Rikugo Zasshi (The Cosmos), a Christian magazine, and compared several translated articles with the original English ones. Regarding Buddhist views on Christianity in the early Meiji, while basic attitudes were very critical, there were some arguments reflectively claiming that Buddhists should learn from Christian activities, especially the method of propagation.

研究分野：宗教学

キーワード：宗教メディア 近代日本宗教史 近代と宗教 翻訳 『明教新誌』 『六合雑誌』 仏教 キリスト教

1. 研究開始当初の背景

近代日本において「宗教」という語が religion の翻訳語として導入され、またそれを受けて「宗教」という概念が組み上げられてきたということは既に指摘されてきているが、明治前期の宗教論については、それがその後の「宗教」概念の展開に影響を与えているにも関わらず、十分な検討がなされていないのではないかという問題意識が本研究の出発点となる。

また、それを検討する際に、共有・公開が進められている宗教メディアに焦点を合わせ、それを横断的にすなわちキリスト教史や仏教史など縦割りの宗教史叙述ではない形で検討することを企図していた。なお、これは「近代宗教のアーカイブ構築のための基礎研究」事業(2011~2014年度科学研究費基盤(B)、研究代表者:大谷栄一)などの成果を発展的に継承するものでもある。

2. 研究の目的

本研究は、明治前期の仏教雑誌やキリスト教雑誌などの宗教メディアを横断的に考察することによって、当時の宗教をめぐる言説空間の再検討を試みるものである。その際に、宗教者が弁証という意図において望ましい宗教像を提示し、かつそれが自らの奉ずる宗教伝統を組み替えるように機能する面もあったという自己理解の再帰的構成の過程に焦点を合わせる。これは特定の宗教伝統のみに見られたことではなく、それ故に横断的な検討が意味を持つことになる。かつ、近代と宗教という枠組から考えるならば、日本のみが独自に経験したこともない。それ故に、同時代的な相互関係を含めて、国際比較を念頭に置いて研究を進める。

3. 研究の方法

本研究では明治前期、特に1880年代を対象として宗教メディアを横断的に検討する。通仏教的なメディアである『明教新誌』(1874~1901)と通キリスト教的なメディアである『六合雑誌』(1880~1921)を中心とし、更にアーカイブ科研の成果である所蔵・目次データを活用しながら他の宗教メディアも取り上げ、内容を検討する。また、このような検討の前提として、『明教新誌』には目次データが存在しないため、可能な範囲で目次を作成して、一般に公開する。

4. 研究成果

(1) 研究成果の概要として、明治12年から24年までの『明教新誌』の目次を作成し、公開した。論文を4本、学会発表を14件(うち国際学会5件)、図書(分担執筆)を2点出した。

(2) 明治期の代表的な通宗派的仏教新聞である『明教新誌』(隔日刊、1875~1901)について、目次を作成した。当初の計画でも刊行されていた全期間の目次は作成できない見込であったが、初年度の進捗状況を見た上で、その重要性和公益性に鑑み、本研究の全期間を通してより重点的に目次作成を行うこととした。この目次を活用して、特に明治前期の同誌の内容を検討した。執筆者と寄稿記事の数などを含めた解題を作成し、基礎的な情報についてまとめた。同誌はしばしば通仏教的なメディアとして述べられ、とりわけキリスト教への対抗が念頭に置かれる際に、通仏教的な「仏教」を立てる議論も確かに見られる。他方で、この時期には抽象的な「仏教」というよりは宗派を前提とした上で諸宗協同を述べる議論や、あるいは自らの宗派の改良を論じる寄稿などが見られたこと、また送付先についての記述から見て既存の寺院と僧侶が読者として想定されていたことなども確認した。その上で(超宗派的な通仏教というよりも)諸宗派協同的な性格を持っていたといえるのではないかと論じた。

(3) 明治期の代表的な超教派のキリスト教総合雑誌である『六合雑誌』(月刊、1880~1921)について、特に明治前期に焦点を合わせて、そこに見られる宗教論や比較宗教論、またキリスト教弁証論について検討した。翻訳論説とその英文典拠についても同定を進め、そのうちの幾つかについて、訳文と英文を対照し、その相違を示して検討を加えた。訳文にのみ見られる付け加えられた文章や、あるいは省略されている箇所があることを確認した。

(4) 中西牛郎を主筆として京都で発行された雑誌『経世博議』(月刊、1890~1892)について、その内容を検討した。同誌は仏教雑誌といえるが、仏教論、宗教論に加えてかなりの誌面を政論に割いていることを特徴として挙げるができる。関わっている人物の背景などから、仏教者や仏教結社、国粹主義者・アジア主義者との接続を可視化させている面があることを指摘した。

(5) より一般的な枠組として、近代の日本における宗教と世俗(性)の関係、また宗教と公共圏が結びつきうる回路について検討した。

(6) 横断的検討の結果として、明治20年代における仏教改良論・運動に先行して、それが行わ

れる下地が明治 10 年代に準備されていた面があったこと、またそこでキリスト教の動向が念頭に置かれていたことを確認した。

(7) 横断的検討の結果として、明治前期における仏教者のキリスト教観について検討した。仏教者がキリスト教を批判していたことが前提であり、かつキリスト教の教義などの思想的な面についての立ち入った検討はあまりなされていなかった。他方で、キリスト教者の活動、特にその布教の実践については、見習うべきであるとするような言及も見られることを指摘し、望ましい宗教の実践について、キリスト教がある種の範型とされていた面があったと論じた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4 件)

星野靖二、明治前期における仏教者のキリスト教観：『明教新誌』を中心に、國學院大學研究開発推進機構紀要、査読有、11 号、2019 年、pp. 1 ~ 32、<https://www.kokugakuin.ac.jp/research/oard/about/p1/kenkikoukiyou>

星野靖二、『明教新誌』解題：創刊から明治 21 年頃までを中心に、國學院大學研究開発推進機構日本文化研究所年報、査読無、11 号、2018 年、pp. 40 ~ 55、<https://www.kokugakuin.ac.jp/research/oard/ijcc/ken-nicgibunkenkankobutsu/ar-ijcc-11>

星野靖二、「新仏教」のゆくえ 中西牛郎を焦点として、大谷大学真宗総合研究所研究紀要、査読有、35 号、2018 年、pp. 47 ~ 68、<http://id.nii.ac.jp/1374/00006347/>

星野靖二、研究ノート：小崎成章のキリスト教・日本宗教論、キリスト教史学、査読無、69 号、2015 年、pp. 197 ~ 211、URL 無

〔学会発表〕(計 14 件)

星野靖二、井上円了と清沢満之：宗教と信の問題を焦点として、第 5 回・清澤満之研究交流会、2019 年

HOSHINO, Seiji, The Development of Knowledge about Religion(s) in Meiji Japan: Takahashi Goro and His Opponents, The First Tohoku Conference on Global Japanese Studies, 2018 年

星野靖二、明治前期における仏教者のキリスト教観：『明教新誌』を中心に、日本宗教学会・第 77 回学術大会、2018 年

星野靖二、明治一〇年代の仏教メディアの再検討：「新仏教」に至る道筋として、日本宗教史懇話会サマーセミナー、2018 年

星野靖二、『明教新誌』の検討：明治二〇年頃までを中心に、日本近代仏教史研究会・2018 年度大会、2018 年

HOSHINO, Seiji, Making Tenrikyo into a Religion: the Reconfiguration of a Japanese New Religion in 1900, 2017 annual conference of the Society for the Scientific Study of Religion, 2017 年

星野靖二、明治一〇年代の仏教演説における教化の諸相、日本宗教学会・第 76 回学術大会、2017 年

HOSHINO, Seiji, Buddhist Apologetics around 1880: Wakeikai and Buddhist Speech (Bukkyo enzetsu 仏教演説)、15th International Conference of the European Association for Japanese Studies, 2017 年

星野靖二、九州における仏教演説 和敬会を中心に、日本近代仏教史研究会・2017 年度大会、2017 年

星野靖二、明治前期「宗教」論の再検討 - 宗教メディアという場に即して、日本思想史学会・2016 年度大会、2016 年

星野靖二、明治前期宗教メディアの再検討 - 翻訳論説を焦点として、日本宗教学会・第 75 回学術大会、2016 年

星野靖二、『経世博議』と中西牛郎、日本近代仏教史研究会・2016 年度大会、2016 年

HOSHINO, Seiji, How Religion Relates to "Public Space" in Modern Japan?, 日本宗教学会・第 74 回学術大会、2015 年

HOSHINO, Seiji, Considering the 'Religious' and the 'Secular' in Meiji Japan, XXI IAHR World Congress, 2015 年

〔図書〕(計 2 件)

吉馴明子・伊藤彌彦・石井摩耶子編、刀水書房、現人神から大衆天皇制へ 昭和の国体とキリスト教、2017 年、総ページ数 345(星野靖二担当分「神道指令後における新しい神道の構想 岸本英夫の神道論をめぐって」pp. 109 ~ 135)

山本伸裕・碧海寿広編、法蔵館、清沢満之と近代日本、2016 年、総ページ数 285(星野靖二担当分「清沢満之の「信」 同時代的視点から」pp. 113 ~ 138)

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

『明教新誌』目次（ 版）について

<https://docs.google.com/document/d/11aMAVUIfteB6V5sEViYe4ZIpNx69fT9ZCCh2zWfPtE>

明教新誌目次（ 版）

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/13UIeNDuEZeef1joIWKPMlwMq8u-ELovbj57aHDKirPc>

6 . 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。